油田の里公園周辺（ゆでんのさとこうえん）

1. 目指すべき景観像

地球のエネルギーを知り　心のエネルギーを蓄える

油田の里公園（ゆでんのさとこうえん）

①相良油田の歴史を感じる油田の里公園

②自然豊かな公園は四季を通じて緑や花を楽しむ公園

③採掘跡地は歩いて楽しめる里山

1. 対象エリアの概要

所在地	牧之原市菅ケ谷2525－1周辺
面積	809ha
施設	資料館　手掘り油井小屋（木造杉皮）　手掘り油井（木造カヤ） バーベキュー広場　多目的広場　遊具　散策道　四阿
アクセス	【自動車】 東名相良牧之原ICから10km　15分 東名吉田ICから国道150号線経由20km　35分 【公共交通機関（バス）】 相良営業所バス停から徒歩40分

自然

相良油田があった菅山新田地区は田畑が多く、採油していたころの様子がうかがえる里山ののどかな風景が広がっています。油田の里公園を流れる久井戸川では市民団体が蛍の育成を行い、放流活動を行うことで、蛍が飛び交う風景が見られます。

歴史

相良油田は太平洋岸唯一の産油地です。その歴史は明治5年、徳川家旗本村上正局が海老江で石油を発見したことから始まります。次いで、日本の石油王・石坂修二王の知るところとなり、明治6年、菅ケ谷に開坑、採油が始まりました。最初は手掘りにより採掘されましたが、この年の10月には米国製の綱掘り機により日本で最初の機械掘りが行われました。手掘り井戸の深さは約100mから180mで最深の井戸は255mにも及びました。最盛期（明治17年）には年間721kℓ（ドラム缶約3,600本）が産出され、井戸数240坑で600人が働いていました。明治から昭和にかけて80年間、相良の一大産業として広く知られましたが、徐々に衰退し、昭和30年頃すべての事業を閉じました。

現在も油井や油井跡地で、ガソリンや灯油分を多く含んだ良質の油が少量ですが採油できます。

観光

昭和25年にロータリー式機械掘削法により開坑した機械掘り井戸が一つ保存されており、県文化財に指定されています。この井戸で実際に汲み取りを見学することができます。平成19年には近代石油発祥の地として経済産業省「近代産業遺産」に認定されました。　集英社の週刊少年ジャンプで連載されていた「Dr.STONE」（原作：稲垣理一郎、作画Boichi）に実名で登場しており、聖地巡礼として油田の里公園には多くの来園者があります。

近隣には相良油田観光くり園があり、シーズンには多数の来園者で賑わいます。

2. 対象エリアの位置図

・牧之原市合併前、旧相良町にある相良油田の里公園

2. エリア図

① 相良油田の歴史を感じる油田の里公園

(1)歴史

相良油田の歴史を知る油田の里公園・油田資料館

牧之原市菅山地区にある相良油田は、太平洋岸唯一の産油地です。明治5年、海老江で石油を発見したことから始まり明治6年、菅ケ谷に開坑、採油が始まりました。最初は手掘りにより採掘されましたが、この年の10月には米国製の綱掘り機により日本で最初の機械掘りが行われました。明治から昭和にかけて80年間、相良の一大産業として広く知られましたが、徐々に衰退し、昭和30年頃すべての事業を閉じました。
現在も油井や油井跡地で、ガソリンや灯油分を多く含んだ良質の油が少量ですが採油できます。
研究のための採油や石油の学習で県外からの来客も多く、採掘場を復元した施設などを有する油田の里公園は歴史的な資源を活かした景観づくりが必要です。
市街地から離れているため、より多くの方に知っていただき、来園していただくために油田の歴史や、施設のPRが必要です。

(2)観光

現存する石油　相良油田油井

昭和25年にロータリー式機械掘削法により開坑した機械掘り井戸が一つ保存されており、現在も採油できる油井は県文化財に指定されています。この井戸で実際に汲み取りを見学することができます。平成19年には近代石油発祥の地として経済産業省「近代産業遺産」に認定されました。
集英社の週刊少年ジャンプで連載されていた「Dr.STONE」（原作：稲垣理一郎、作画Boichi）に実名で登場していることから、多くに人々が訪れます。全国からの観光客など多くの人が快適に過ごし、歴史を感じられる景観づくりが必要です。

〈景観形成の主な課題〉
・現地までのアクセスが分かりづらいため、景観に配慮した案内看板を設置する必要がある。
・太平洋岸側で唯一の油田なのでもっとPRする必要がある。
・油井からの眺望が楽しめる視点場の整備が必要である。

② 自然豊かな公園は四季を通じて緑や花を楽しむ公園

(1)自然

自然豊かな油田の里公園

油田の里公園は相良油田の歴史や石油エネルギーを学べるだけでなく、自然や四季折々の草花、油の出る樹木等を楽しむことができる公園として利用されています。
春は桜やツツジが咲き、初夏には小川で咲くスイレンが楽しめます。夏の間は芝生と葉桜の緑、秋には紅葉したモミジが公園を彩ります。桜は手掘り井戸小屋近くにあるので、撮影スポットになっています。
公園内を流れる久井戸川では初夏に蛍が飛び交う様子も楽しむことができます。蛍は市民団体により育成され、併せて蛍が住める環境づくりも行っており、引き続き河川の環境保全が必要となります。。

(2)眺望

起伏のある園内は芝生広場を一望

起伏のある園内では小高いところになると園内が一望できます。手入れの行き届いた芝生広場の緑は来園者の心を癒やし、山の緑や木々の豊かな緑の中の散策は心身ともにリラックスできます。のんびりとした時間を過ごすために誰もが安心して散策できる歩道やベンチなどの休憩施設の整備を行う必要があります。芝生広場は地域団体の菅山クラブが手入れを行っており、引き続き地域と連携して維持管理を行っていくことが必要です。

〈景観形成の主な課題〉
・季節の草花が楽しめるよう樹木等の定期的な管理が必要です。
・河川の清掃等、自然環境の保全が必要です。
・安心して楽しめる自然環境に配慮した遊歩道や施設の整備。

③ 採掘跡地は歩いて楽しめる里山

(1)歴史

相良油田の歴史を探り・歩く

油田の里公園周辺エリアには実際に採油していた地域が広がります。井戸の数は240坑、約600人が働いていました。日本初の機械掘り成功井跡「庄八屋敷跡地」や石油採掘に関係した人々の石碑など相良油田に関連した施設がこの地域にあり、油田の里公園から徒歩で散策できます。多くの石油航があった新田地区は今でも当時の景色・雰囲気を感じることができます。安全に散策できる歩道や景観に配慮した分かりやすい案内看板が必要です。
河川沿いのガードレールの修繕、取り換え時は景観に配慮した色彩にするのが望ましいです。

(2)眺望

田畑が広がる里山の景色

菅ケ谷川が流れ、田園風景の残るこの地域は、里山の景色が広がっています。現在残っている油井付近からはこの地域を見渡すことができ、採油していた当時を思い起こせるような眺望ポイントとなります。
里山の保全は民有地となる場所が多いので、土地所有者や地域での草刈りや農地の管理等の協力が必要となります。

〈景観形成の主な課題〉
・新田地区の里山風景の保全、写真スポットが欲しい。
・ガードレールのサビ、破損が目立ち景観を阻害している。
・安全に散策できる歩道や休憩場所の整備。

地球のエネルギーを知り　心のエネルギーを蓄える　油田の里公園

地域住民の視点

・相良油田の歴史を感じる里山の風景
・田や畑、里山の美しい景色
　棚田がよい
・ゆかりの地を巡る地に歴史が学べたり楽しめる仕組みがあったら良い
・相良油田の歴史や自然エネルギーを知ることができる施設
・自然と親しむ要素が必要
・写真映えスポットが欲しい
・気持ちよく歩くことができるコース
・川沿いの景色の保全
　草を刈った方がきれいに見える
　ガードレールのサビ、破損が目立つ
・歩道が欲しい
・油田の里公園施設のアピールをもっとした方が良い
・ゆっくり休憩できるベンチ
・公園までのわかりやすい案内看板が必要

有識者の視点

・油田の里のイメージアップすること
　明治時代の油田の風景が残っているのはほかにはない貴重な資産です。そのために神社や石碑などのシンボルがよそから来た人が見やすくなっていることが必要です。
・里山の風景を保っていくこと
　すごくいい里山の風景がある。派手な看板や突飛な色彩のため物がほとんどなく周りの山並みと含めて里山の風景が素晴らしい。
・川沿いの景色を活かすこと
　川沿いに夏みかんやアロエがあり、」そこから見た田んぼの風景も泣かんか魅力がある。
・ウォーキングコースがあるといい
　案内してくれるガイドを利用し、「巡り・繋げる」プログラムをつくってほしい。
・この地区全体をアピールし、この地区いいなって思えるようなお祭りやシンボルイベントがあるといい

5. 景観目標と景観づくり方針

目標１
相良油田の歴史と自然エネルギーを学ぶ油田の里公園資料館周辺の景観づくり

景観づくり方針

①美しい緑の山を背景に写真撮影したくなる場づくり

②座って休息できる憩いの場づくり

目標２
油田の里公園の自然を四季を通じてゆっくり楽しむ景観づくり

景観づくり方針

①地域住民と観光客の利用の調和が図られた場づくり

②のんびり長い時間楽しんでもらえる癒しの場づくり

目標３
「油田の里」を歩いて楽しむ里山の景観づくり

景観づくり方針

①美しい眺望をより印象的に見せる場づくり

②ゆったりと眺望を満喫できる場づくり

対象エリアへの入口・アクセス部における景観形成

6. 景観施策(案)と実施主体・時期

目標１ 相良油田の歴史と自然エネルギーを学ぶ油田の里公園資料館周辺の景観づくり

方針１-① 相良油田の歴史と自然エネルギーを学ぶ場づくり

	取組み	実施主体
短期	①景観に配慮した看板の設置	●市 ●市
中・長期	②景観に配慮した自然エネルギー施設の設置 ③相良油田の歴史が学べる茅葺小屋の修繕等整備	●市 ●市

方針１-② 長い時間楽しんでもらえる公園づくり

	取組み	実施主体
短期	④広い公園内 で休憩できるベンチの設置 ⑤眺望を楽しむ人の視線に配慮した、視点場及びその周辺の景観配慮	●市 ●市･市民
中・長期	⑥長い時間滞在できる環境整備 （トイレ整備等） ⑦家族連れで楽しめる体験施設の整備	●市 ●市

目標２ 油田の里公園の自然を四季を通じてゆっくり楽しむ景観づくり

方針２-① 自然に癒されのんびり楽しめる場づくり

	取組み	実施主体
短期	⑧自然豊かな景色を楽しめるベンチの設置 ⑨景観を阻害する公園内樹木の剪定・伐採 ⑩住民主体による花の手入れ・管理	●市 ●市 ●管理団体・市民
中・長期	⑪散策路途中での新たな視点場（休憩所・ベンチ）の設置 ⑫長い時間滞在できる環境づくり（トイレ整備等） ⑬河川の清掃等を行い自然環境を保全する。	●市 ●市 ●市・市民

方針２-② 豊かな緑の中で身体を動かすことができる場づくり

	取組み	実施主体
短期	⑭いつ来ても楽しめる芝生広場の整備 ⑮園内を安全利用するルールづくり（散歩・ジョギング）	●市・管理団体 ●市・管理団体・市民
中・長期	⑯楽しんで散策できる自然由来の資材を使った園路の整備 ⑰季節の草花を、のんびり楽しむことができる園内整備 ⑱家族連れで楽しめる、遊具等の設置	●市 ●市・管理団体・市民 ●市

目標３ 「油田の里」を歩いて楽しむ里山の景観づくり

方針３-① 里山の風景を保全する景観づくり

	取組み	実施主体
短期	⑲景観を阻害する視点場周辺にある草木の手入れ ⑳眺望を楽しむ人の視線に配慮した、視点場及びその周辺の景観配慮	●市・市民 ●市
中・長期	㉑住民主体による農地や草花の手入れや管理 ㉒油田の里公園までの道路の修景やガードレールの補修、色彩配慮 ㉓新田地区の里山景観の保全	●市民 ●市 ●市・市民

方針３-② 地域住民と観光客の調和が図れる場づくり

	取組み	実施主体
短期	㉔景観に配慮した周遊できる案内看板の設置 ㉕眺望を楽しむ人の視線に配慮した、視点場及びその周辺の景観配慮	●市 ●市・市民
中・長期	㉖河川の浚渫や除草作業 ㉗荒廃した山や農地の整備・管理 ㉘写真撮影時における、お薦めスポットの設置	●市・土木事務所・市民 ●市民・市 ●市

対象エリアの入口・アクセス部における景観形成

当該エリアの入口、あるいはアクセス道路となる箇所（区間）で実施する景観形成を以下に示します。

	取組み	実施主体
短期	㉙景観を阻害する落書きや、違反屋外広告物に対する是正措置 （菅ケ谷本線：周辺）	●市